

## 街に緑を、窓辺に花を

朋来2丁目 小田 明さん

「わたしが育てた花を見た人が、自分も育ててみたいと思ってくれるのが一番うれしい」と話すのは、植物の育て方などの教室で指導者として活躍する小田明さん。

幼いころから植物を育てることが好きで、定年まで趣味として盆栽などを育てていた。定年後、樹木の健康診断や治療をする樹医の資格を取得した。大東市緑の推進員にもなり、朋来地区の緑化を推進している。10年程前には「植生会」を結成。植生会では、大阪府みどりの文化園から無償提供される植物の種を育て、咲いた花から種を採って同園に返却する活動をしたり、小・中学校で子どもたちに苗植えを教えたりしている。

「小学3年生の子どもたちに、教材として、実習と観察日誌の記録の勉強ができるようにミニトマトの苗を鉢植で贈呈

しました。その後、子どもたちからたくさんの手紙が届きました。そこには『今までミニトマトを食べたことがなかったけれど、自分で育てたミニトマトを食べてみたらとてもおいしかった』など素直な気持ちを書かれていて、本当にうれしかったです」と話す。

### 見る人も育てる人も笑顔に

植生会では、昨年から朋来2丁目にある市水路埋立地で梅雨時にはアジサイ、夏にはヒマワリ、秋には菊といった四季折々の花を育てており、美しい花々が通行人や周辺住民の目を楽しませている。「会員のみならず、次はどんな花を植えようかと楽しみながら活動しています」。また、育てる楽しさだけでなく、見てもらう楽しさもあるという。「花を見て、育ててもらえることは、育てる上で大きな励みになります。たくさんの人に育ててもらって喜んでももらえたらと思います。時には咲いている花をプレゼントすることもありますが、笑顔でありがとうございます。笑顔でありがとうと言っても、さらえるだけでうれしい気持ちになります。『もらった花は、まだ咲いているよ』と言われて会話が弾みます」。

### 市民の手で公園に花を咲かせたい

末広公園では、昨年の春から周辺の自治区



白、ピンク、赤と色鮮やかなゴテチャの花の手入れをする小田さん



植生会の会員に指導する小田さん(左)

やクラブの皆さんが花の苗の植栽を行っている。「花が咲くことで、公園の散歩も楽しくなります。植生会もステージ西側の花壇の角にゴテチャを育てました。5〜6月に開花したゴテチャは、散歩する方に好評でした。公園は利用者が多いところですが、植物を育てることが好きな方や市民の手で公園に花を咲かせましょう。花と緑を通じて街づくりの輪が広がることを願っています」。

小田さんは、アクロスや地域の集会所の講座でさまざまな人に植物の育て方を教えている。

「自分の知識を全部伝えるぐらいの気持ちで、納得がいくまで教えています。受講者の皆さんも向上心があって一生懸命に聞いてくれます。今後また皆さんの人に教えていきたいです」。

小田さんは、これからも大東にきれいな花を咲かせ続けてくれるだろう。